

# ボランティア OSAKA



## 第8回 おおさかボランティア フェスティバル 記念特集号



第18号

'99  
SUMMER/AUTUMN

●発行●

(福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティアセンター

特集

シルバーパワー全開！  
国際高齢者年記念「高齢者ボランティア大会」

●市町村ボラ連「Vサイン」No.7

10 / 3

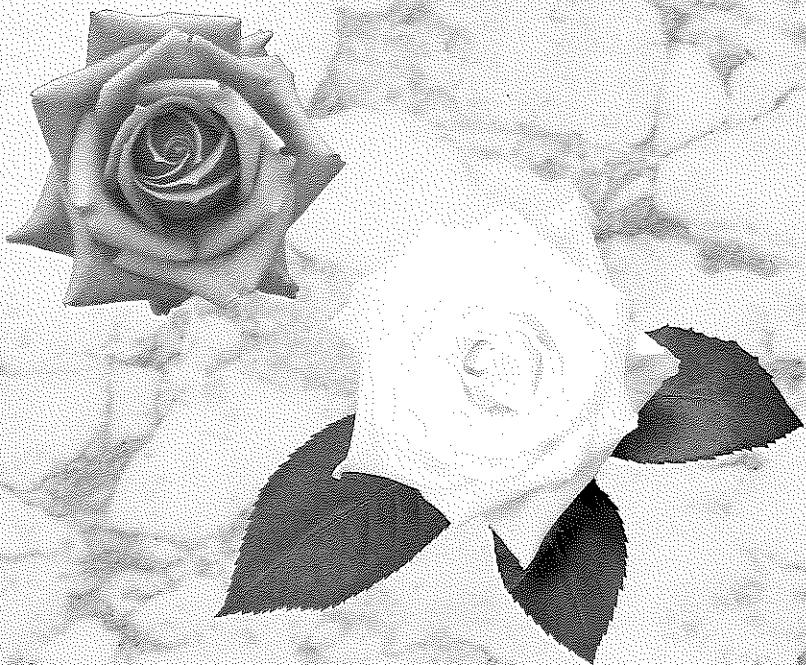
第8回

## 言葉を交わせばみんな仲間、 すべての世代のための社会をめざして

すっかり恒例となった  
「おおさかボランティアフェスティバル」。

今年は国際高齢者年にちなんで  
「高齢者ボランティア大会」をメインに開催します。  
そこで本誌今号では、この大会に推薦され、または応募してくださった、  
大阪府内で活躍する個人・団体を一挙に紹介。  
あらためて、その活動の幅広さ、  
そしてシニアの皆さんのがパワーに圧倒されそうです。  
いまや、すっかり各地に根づき、  
地域に欠かせない活動となっているものも少なくありません。  
パワフルなシニアの皆さんに触発されて、  
さあ、私たちもレツ・ボランティア！

おおさかボランティアフェスティバル



## タレント揃いの 実力派集団

●シルバー・アドバイザー

北河内地域の会



大阪府シルバー・アドバイザー養成講座の修了生が中心になり、福祉施設へのふれあい訪問活動や、伝承おもちゃづくりの指導と交流、さらに国際交流など、多彩な活動を展開しているのが「シルバー・アドバイザー北河内地域の会（SA北河内）」。結成して3年、その活動は日を追うごとに大きな広がりをみせてています。ふれあい訪問活動で

語、詩吟や踊りを披露しますが、メンバーには、いわゆる“芸達者”な人が多いのがこのグループの特徴。「守口・枚方・寝屋川・大東・門真・四條畷・交野…の各市に在住のシニアがメンバーで、エリアも活動メニューも広いのが自慢です。これからも会員の結束で、地域社会にもっともっと貢献していく」と会長の藤田昭三さんは語ります。「皆さんの訪問を、入居者も楽しみにしています」と訪問先の各福祉施設からも高い評価を得ているSA北河内。タレント揃いの実力派集団です。



「演じる  
「どじょうすくい」は  
玄人はだし

門真市・武田キヨ子さん（62）



2

タレント揃いのSA北河内のメンバーの中でも、ひときわ高い人気を集めているのは、「どじょうすくい」を演じる武田キヨ子さん（62）。武田さんはプロの林家三笑師匠の手ほどきを受けたというだけあって、安来節にのせて演じる踊りは天下一品。老人施設への慰問や国際交流、また異世代交流などの催しで、もう数え切れないほど「どじょうすくい」を演じてきました。日頃は自家業の和菓子づくりに忙しい武田さんですが、ひとつたび“お座敷がかかれば”万難を排して参加し、皆さんから拍手喝采を集めます。

「お尻を振るだけで3年かかるといわれるんですが、去年、初段の免状をいただきました。でも、まだまだこれから。芸に磨きをかけて、より多くの人たちに笑い、楽しんでいただきたい」と武田さん。「重度の障害を持ったお年寄りが、私の踊りを見て笑ってください、握手を求めた手を力強く握り返してください。ときには、本当にやついてよかったです」と思いします」と語られます。その場の雰囲気や、観客の年齢などに合わせて、臨機応変にアドリブを利かせ、爆笑の渦をつくり出す彼女は、まさにボランティア・エンタテイナー。これからも、より多くの人を笑わせ、楽しませてほしいのです。



## 紙芝居の朗読で交わす 子どもたちとの 心の交流

高槻市●こだま



出します。

同学園の子どもたちは、「こだま」と離れて暮らす20人あまりの子どもたち。親に絵本を読んでもらった経験のない彼らには、「こだま」のメ

ンバーと過ごすこの時間は、家族との団らんに代わる、いこいの一時なのです。「こだま」ではまた、施設や病院で療養中の子どもたちの慰問も定期的に実施。

そんな「こだま」では藤井きみさん(70)、高橋とき江さん(73)、高島好枝さん(72)、松本久枝さん(70)をはじめとするシニア・ボランティアたちも活躍しています。

「こだま」代表雨谷都志子さんにみると、「なかでもグループの発展に最も尽力されたのは前会長・田中清さん(82)。社会福祉協議会主催の朗読ボランティア講座修了生で「こだま」を結成して以来14年間、まとめ役として頑張ってこられました。

「大きなかぶはおじいさんがひいてもびくともしません。そこへおばあさんがやって来て…」。ボランティアたちの臨場感あふれる声の演技で、養護施設「ヨハ不学園」の一室は子ども劇場に早変わり。朗読ボランティアグループ「こだま」によるエプロンシアター「大きなかぶ」の熱演に、子どもたちは目を輝かせ、舞台に引き込まれるように身を乗り

みんなと会って、  
おしゃべりするのが  
楽しい

四條畷市●石川晴江さん(78)



四條畷市の精神障害者作業所「夢丸工房」で、通所者と一緒に作業をしたり遊んだり、また話し相手になったり、いろいろな行事を手伝つたり…そんな活動を続いているのが精神保健ボランティア団体「ポコボコ」。体力にあ

り自信はないんですが、皆さんと会うのが楽しみなんです」と語る石川晴江さん(78)は、4年前にポコボコに入会しました。「ご自宅から30分以上もかけて作業所に来られるんですが、高齢を感じさせない熱心さに頭が下がります」と仲間の南畠幸子さんもエールを送ります。

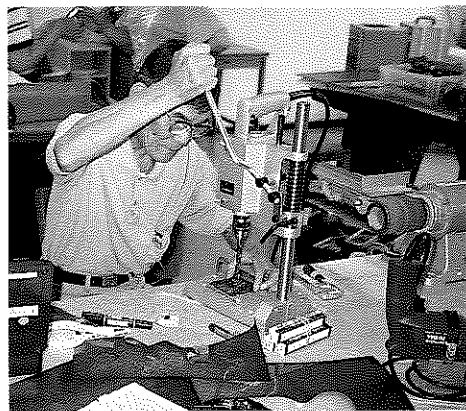
大人向けの  
人形劇つくりに挑戦

高槻市●原田清八さん(82)

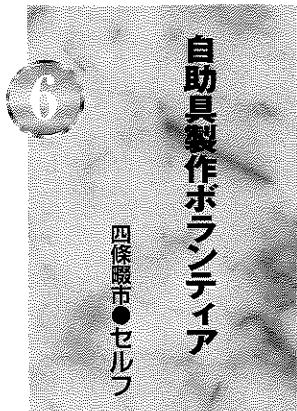


原田清八さん(82)は、高槻市内で活動を行う人形劇グループ「赤ずきん」の「白一点」。主婦中心の10人のメンバーの中で、男役の声を担当したり、大小の道具作りに活躍しています。原田さんの劇との出会いは、戦後の貧困と混乱の中、子どもたちの心が荒廃しかけていた頃のこと。紙芝居などの子ども会活動で、子どもたちに語りかけ、健やかな成長を促そと、演劇

創作活動に取り組んでこられました。現在は保育園以外に、老人会の方々の前で公演することもあります。今後の抱負は子ども向けの童話だけではなく、大人が見て楽しめるオリジナル劇の脚本づくり。「高齢者のボランティアだからこそ、人生の機微も分かるいい芝居を作れる」と原田さんは新しい挑戦に意欲的。シニアパワーが加わり心強い「赤ずきん」の発展が楽しみです。

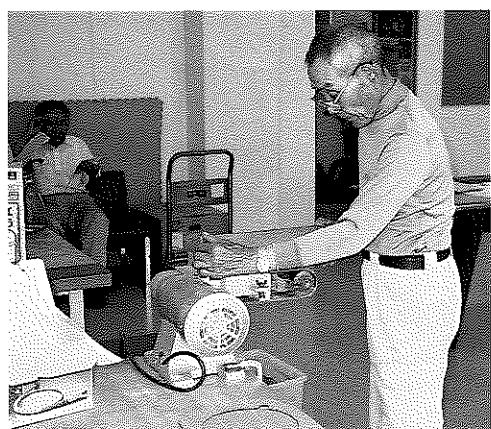


河江武春さん



四條畷市●セルフ

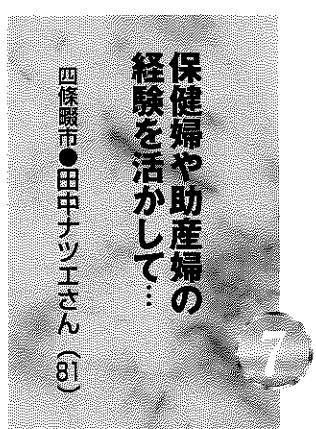
### 自助具製作ボランティア



谷木隆信さん

障害を持つ方々に快適な日常生活を送ってもらうため、使いやすい箸やスプーン、コップやフォーク、またヘアブラシなどの日用小物を制作している

のが、自助具製作ボランティア団体「セルフ」。なかでも谷木隆信さん（80）と河江武春さん（72）は、年齢を感じさせない元気はつらつボランティアさん。アクリルや木を素材に、丹精こめて造り上げる製品の完成度も高く、「お二人の熱心さ、向上心の高さは私たちの目標です」と仲間の今真知子さん。「製作した作品が利用者に喜んでいただけたときが一番うれしい」とお二人は語られます。



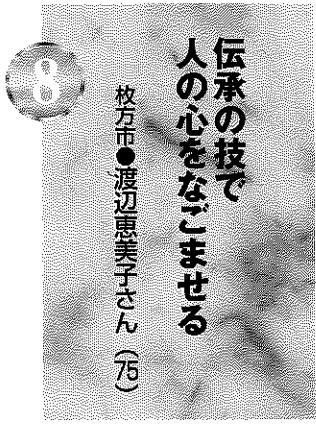
四條畷市●田中ナツエさん（81）

多くの人に伝統の技を教えるかたわら、彼女は、その見事な作品を各地の老人ホームや病院にプレゼント。伝承の技で多くの方の心をなごませるユニークな活動に、私たちも声援を送りました。

市のボランティア研修会に参加したのがきっかけで、地域のデイサービスセンターで活動を始めるようになった



のが田中ナツエさん（81）。ボランティアグループ「ふれあい」の一員として、利用者の話し相手になつたり、一緒にゲームを楽しんだり歌をうたつたり。活動歴は7年になりますが、「保健婦や助産婦の経験がおありなので、利用者の目線で活動される姿は私たちの目標です」と仲間の今真知子さん。まさに「生涯現役」のボランティアさんです。

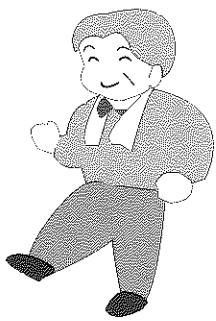


枚方市●渡辺恵美子さん（75）  
伝承の技で  
人の心をなごませる

高齢者福祉の世界で多彩な活動を開し、会員数の多さから「わが国最大のNPO」と言われる「ナルク（ニッポン・アクティブライフ・クラブ）」。その本部を拠点に、各地で古典折り鶴を教えているのが渡辺恵美子さんです。古典折り鶴は、桑名市に江戸時代から伝承されてきた無形文化財の技で、渡辺さんは3年間現地に通い、その技を習得しました。

60センチと90センチの和紙に、大小13から100の正四角形を描き、ごく一部を残してはさみを入れ、一枚一枚を鶴に折り上げると、たくさんの鶴でできたクス玉などの見事な作品が完成します。49種の形が伝えられていますが、四角形を組み合わせて製図する段階から、1ミリの誤差も許されない精緻なものです。「集中力がないとできません。没頭、祈りの心で取り組んでください」と、高校生も混じる受講者に熱心に教える渡辺さん。

多くの人に伝統の技を教えるかたわら、彼女は、その見事な作品を各地の老人ホームや病院にプレゼント。伝承の技で多くの方の心をなごませるユニークな活動に、私たちも声援を送りました。



**時間預託  
全国NO.1**

大阪市●深山美奈子さん(58)

3117 時間の預託時間数（平成11年4月30日現在）を持ち、いまも活発なボランティアを続けているのが深山美奈子さん。これは全国に50の支部を持ち、9000人の会員を擁するナルクでもNO1の数字だそうです。

「夫が亡くなり、一人息子も大学生で、時間つぶしに何かしたい」と考えて当時のアクティブライフ（ナルクの前身）に入りました。ヘルパーの2級をとり、義兄を2年半看とつて、近所のおばあちゃんなどのお世話ををするうちこんな数字に。結局、大阪のおばちゃんたんですね、私も。」世話好きで「見とれん」というところまで、この預託時間も「使わずに死ねたらいい」と語る深山さん。大阪のおばあちゃん、いつまで頑張つてください！」

昭和63年に結成され、今年で12年目を迎える「ジグザクの会」。後期高齢者を中心に、そこに50・60代の人が加わり、一人暮らしや寝たきりの方々のために手作り作品を製作しプレゼントする活動を続けています。

老人会食会」に参加されている方から「いつもお世話になるばかりで、私にも何かお役に立てるとはありませんか」という申し出がきっかけでした。そのとき、ちょうど町社協が雑巾づくりのボランティアを募っており、「それなら昔どった杵づか。ジグザク縫いでもよかつたら…」という話になり、ここから会の名前も決定したとか。

さまざまな手づくり作品のなかでも、とくに好評だったのが平成元年の年末に、町内の寝たきりのお年寄りにプレゼントした43着の綿入れハンテン。製作に10カ月を要しましたが、一針一針こころを込めて縫い上げたハンテンにお年寄りも大感激だったとか。いまではこうした手づくり作品だけでなく、手づくり料理を楽しんだり、「寝たきりにならないために」の講演会、また「ボランティアとは?」と活動するための研修会、さらに近隣のグ



手づくり作品を、  
一人暮らしや寝たきりの  
方々にプレゼント

河南町●ジグザクの会

東大阪市●福田君栄さん（83）

得意の技で  
「手芸教室」を開催

東大阪市●福田君采さん(83)

**近鉄「永和」駅前にある東大阪市ボランティアセンター**。ここでは毎月、「東大阪SAクラブ」が主催する「手芸の会」が開かれています。SAはシ

阪市に在住する高齢者の皆さんとの親睦会。大阪府の老人大学やシルバーアドバイザー養成講座を卒業した皆さんを中心には、ダンスやハイキング、ゴルフやペタンク、俳句づくりや旅行などを楽しんでいます。それ

それが部会となつており、「手芸の会」もその一つ。約30名が毎月、布や紙を

材料にオリジナル作品にチャレンジ。人形やブローチ、ちぎり絵、壁掛け、ハンカチ、まくらめ編みなど、多彩な作品に挑戦してきました。

この「手芸の会」の先生を務めるのが福田君栄さん（83歳）。シルバーアドバイザー養成講座の4期生として1年間、大阪府吹田市にある老人総合センターに通い手芸を学び、そのあとは5年ほど、そのまま手芸講師の助手を務めてプロ級のワザを身につけまし

「手芸の会」の参加費は材料費のみ。  
「それも福田さんがまとめ買いをして  
くださるので、高くても500円まで。  
町のクラフト店などで買うと、とても  
そんな値段では…」と会員の皆さんか

ループとの交流会など多彩な活動を開。すっかり地域に根づいた活動になつてゐるようです。



らも喜ばれています。

取材の日に皆さんを取り組んでいたのは、ペーパークラフトでの「向日葵づくり」。指導する福田さんは声も大きく、テキパキと皆さんに作り方を教えていきます。「東大阪SAクラブの役員もしていただいているんですが、他にも、住まい近隣のデイサービスセンターでボランティアをするなど、とにかく年齢を感じさせないアクティブな方。東大阪のシニア仲間のスターのような人ですよ」と仲間の中島恒夫さん。ボランティア活動は、いまのようになにその言葉が定着していない「40代の頃からやつていましよ」という福田さん。あらためて、私たちの地域社会が彼女のような人たちに支えられてきたことを教えられます。



**撮りたいものを撮って相手に言んでもらう。こんなに楽しいことはありません。**

泉大津市●松井久枝さん(67)

ボランティアで写真を撮り続け、

無料でプレゼントしては多くの人に喜んでもらっている女性がいます。

と屈託なく笑います。

いまでは、公民館のクラブ連絡会の委員として公民館運営に関わるなか、成人式や、地元・泉州の毛布まつり、また市民マラソンなどの行事などでもボランティアカメラマンとなりが写った写真を手渡された外国人選手は、予期せぬプレゼントにみんなびっくり。いまでは大会の運営本部からも「認知された“カメラマンとして、レース後のレセプションなどにも参加。ささやかであつても

「民間外交にも貢献」しています。

松井さんが写真を始めたのは「まだ独身時代、銀行に勤めていた頃から」です。職場の慰安旅行などでは「いつもカメラマンを務めています」とか。それが50歳くらいからご主人の勧めもあつて本格的に。「時間的余裕ができたこともあるんでしようが、何よりも夫婦一緒に趣味であつたのが大きかった」とこ本人は語ります。二人で撮影旅行に出かけたりするなか、やがて熱も冷めていく

ご主人に比べ、松井さんは反比例するようかに「どんどん写真の魅力が、ハマつていったんです(笑)」。自分



の心のおもむくまま、被写体にレンズを向けては、現像してプレゼントする。そのときの相手の「驚いた様子と、感謝してくださる気持ちが、また次の撮影に私をかりたてるんであります。一時期はのめり込みすぎて、フィルム代や現像代、引き伸ばし代などが大きかった。その額が大きすぎて…」

ズを向けては、現像してプレゼントする。そのときの相手の「驚いた様子と、感謝してくださる気持ちが、また次の撮影に私をかりたてるんであります。一時期はのめり込みすぎて、フィルム代や現像代、引き伸ばし代などが大きすぎて…」



と屈託なく笑います。

いまでは、公民館のクラブ連絡会の委員として公民館運営に関わるなか、成人式や、地元・泉州の毛布まつり、また市民マラソンなどの行事などでもボランティアカメラマンとして大活躍。さらに市民が編集企画をし、市が発行しているミニコミ誌にもボランティアで関わっています。

「商業写真じゃないので、撮りたいものを撮つていればいい。それが素直に楽しいんです。もう6年ほど前の話ですが、二週間ほど入院していました。そのときに、点滴を操作する看護婦さんの表情がとても素敵で、ぜひ写真に撮りたくなつたんです。そこで婦長さんにお願いして「病院の一日」を撮つた。

みんな一生懸命仕事に取り組んでいたことがありました。そのときに、

点滴を操作する看護婦さんの表情がとても素敵で、ぜひ写真に撮りたくなつたんです。そこで婦長さんにお願いして「病院の一日」を撮つた。

本業はご主人とのそろばん塾の経営ですが、ここでも、通つてくる子どもたちに、もう何年もぜんざいをふるまつてきました。「夫の厄年のときから始まつたんですが、30年以上も続いているので、今までには昔にぜんざいを食べた子の、その子どもが食べにきたりするんです。でも、それがまた嬉しい」。写真の腕前はもちろんプロ級。でも

も彼女のアマチュアリズムが、どこかボランタリズムと通じているように思えます。

## 家庭介助・家庭看護を 地域でバツクアップ

大阪市東住吉区●蘿原明子さん(70)

「家庭看護あいの会」は、大阪市東住吉区で活動するボランティア団体。女性を中心とした約60名のメンバーが、家庭看護や介助に関する講習会を開催する一方、要介護者を持つ家庭に入り、家族をバツクアップしながらお年寄りのお世話をしたり、また老人施設での料理や清掃の手伝い、さらに食事サービスなど、多彩な活動に取り組んでいます。会長の蘿原明子さんは、この活動を昭和58年ころから始められた方で、いまや地域内での活動のみならず、各地での講演を精力的にこなすなど、まさに八面六臂の活躍を続けています。

て相談し、お世話する人が地域社会には必要なんだと痛感したんです」と語ります。

それをきっかけに、当時からお年寄りの数が多くかった東住吉区田辺地区で、蘿原さんは高齢者の家庭看護の取り組みをはじめるに。「田辺だけではなく東住吉区全体の高齢化率が高かつたんですが、行政のバツクアップもあって、昭和60年に『田辺看護婦人会』というのを設立しました。当時は、寝たきりのお年寄りを抱える家族の介護や看護知識は乏しく、床ずれのお年寄りがたくさんいました。それをなんとかしたい・そんな思いで始めたのです」。

いろいろグループは徐々に大きくなり、男性も活動に加わるよう

もともと、フツーの主婦だった蘿原さんが、こうした活動を始めるようになつたのは、まだ40代だったころ「近所で身よりのないお年寄りが亡くなられたこと」がきっかけでした。「夫が町会長をしていた関係で、お見送りのお世話をさせていただいたのですが、いろんな事情で、不慣れな私がお経をあげることになつたんです。でもそのときこうした際のお世話ををする誰かが要る…というこ

と。恵まれない方、困っている方に、親身になつている方、地域社会に

になつてきたため、平成6年に名称を「家庭看護あいの会」に改称、同時に「東住吉区家庭看護赤十字奉仕団」（現在、会員は約90名）の名称で対外的な活動もするよう。この「対外的な活動」では、阪神・淡路大震災のときの半年間に及ぶ現地での救援・支援活動、とりわけ独居老人の人命救助、病院の発見などの活動があり、それらの中心に、常に蘿原さんがいたのは言うまでもありません。

「私の活動に影響されてか、今まで息子の嫁が手話を習うようになります。嬉しいかぎりですが、あらためて、自分が受けた感動が、また周囲の人にも伝わることの喜びを感じています」と語る蘿原さん。そのバイタリティは、70歳を迎えてますます盛んです。



## 日本赤十字の指導員として、人の生命の尊さを 説いてきた39年

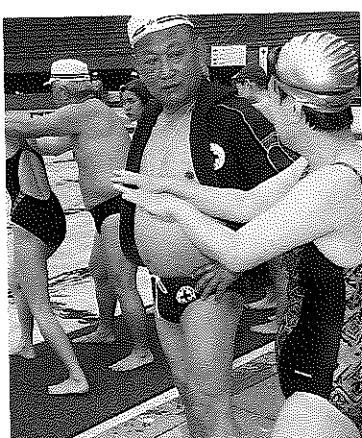
●山崎啓一さん(72)

「私は人に奉仕し、生命の尊さを説くように生まれついてるんでしょうなあ」と感慨深げに語るのは、今年72歳になる山崎啓一さん。

昭和35年（当時33歳）、日本赤十字社の水上安全法の講習を受講し、指導員の資格を取得。以降、今日にいたるまでの39年間にわたって、大阪赤十字安全事業指導奉仕団の「水上安全法、救急法指導員」として、奉仕活動を続けています。

当時の山崎さんは、大阪府警高石警察署に勤務する警察官。管内には有名な高師ノ浜海水浴場、浜寺公園海水浴場があり、夏を中心に水難事故対策とその防止策に忙殺されていたとか。

「職務上も、緊急救助・応急手当て





昔は夏の1日講座、今はお盆の壇家まわりと、夏は山崎さんにとって多忙な季節。



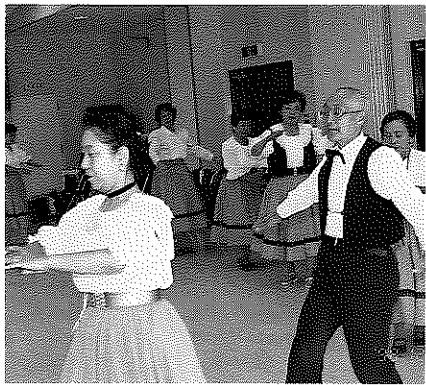
人が多数参加する一日講座も多いため、まだ若かった50代前半の頃は、夏ともなると毎週府内各地を飛び回つていましたと言います。

現在の職業はお寺のご住職。警察官、奉仕活動、そして住職と、人に奉仕し続けてきた、これまでの日々。人の生

命の尊さを肌で感じてきた山崎さんは、ではの、包容力のある力強い人柄は、常に周囲の人たちから絶大な信頼を受けています。

## 地域社会の、 シルバー・ボランティア・ リーダー

河南町●中川治さん(77)



大阪府老人大学の卒業、またシルバー・アドバイザー養成講座の修了をきっかけに、地元・河南町で地域活動のリーダーとして活躍している中川治さん。

ボランティアとしてフォーカクダンスを指導する他、知的障害児施設や小学校との交流、また歌体操や地域の清掃、さらに地区福祉委員としての活動など、まさに一人で何人分もの活躍をされている方です。そのエネルギーがユニークな活動ぶりは、とても年齢を感じさせません。「さまざまな活動を通じて、地域の高齢者が寝たきりにならず、体力の維持・向上をはかれるようこれからも頑張ります」と中川さん。まさに地域社会の、シルバー・ボランティア・リーダーと呼ぶにふさわしい方です。

## 折り紙先生、東奔西走

守口市●吉田美代子さん(67)

河内町●中川治さん(77)

吉田美代子さん、67歳。10歳は若く見えるエネルギー・シユな女性で、朗らかで暖かい笑顔が印象的です。吉田さんは、守口・枚方などを中心に関西各地で活躍する折り紙ボランティア。公民館や小学校、国際交流センターなどで折り紙教室を開く一方、姉妹都市との交流活動の一環として、贈呈する記念品の作成もしています。

吉田さんの折り紙は、折り方に独自の工夫と改良が加えられているため、誰でも簡単にきれいに仕上げられるのが特徴です。このため、視覚障害者も楽しめ、高齢者のリハビリなどにも効果があり、あちらこちらで折り紙による指先の機能回復訓練の指導もしています。

元来、娘さんのリハビリ訓練のために、と折り紙を始めただけに、手先がうまく動かなくても、簡単に、しかもきれいに折ることができるように、さまでまな工夫をしてきました。



た。「これまでうまくできなかつたのに、このやり方ならきれいにできました！」と、喜んでくれる参加者も多いそうです。

また、相手の年代に応じたメニューを用意することも大切にしています。小さな子ども、高校生、高齢者、外国人、親子…。子ども対象の講習会のときには、「動くおもちゃ折り紙」や人気アニメのキャラクターといった子ども向けの折り紙を取り入れなど、参加者の顔ぶれにあわせる心遣いも。

一枚の正方形の紙から生まれるさまざまな夢と人の縁。「これからも、年齢や国を超えた活動の輪を広げていきたいですね」と、ますます意欲的な吉田さん。自慢の「折り紙七つの道具」をひつさげて、今日も元気に各地を飛び回っています。

## 華麗なマジックで 観客を魅了

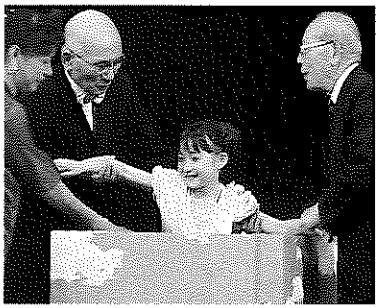
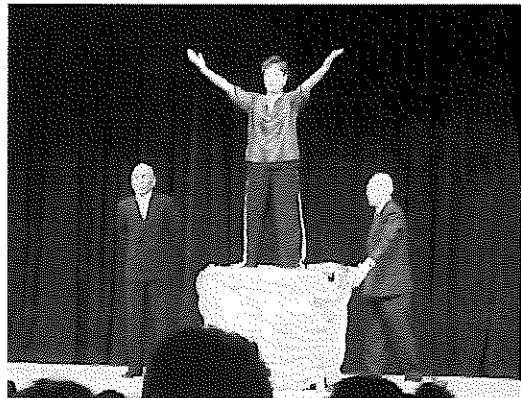
池田市

●池田アマチュア・マジシャンズ



大きな箱に閉じこめたはずの女性がいつのまにか女の子にすり替わる…こんなプロ顔負けのマジックを演じるのは、「池田アマチュア・マジシャンズ」。平均年齢63歳、22名の手品愛好家からなる「マジシャンズ」は大阪老人大学修了生の呼びかけで5年前に結成。これまでに92回も、老人ホームや幼稚園などでマジックショーを演じてきました。マジックは「なんといってもその華やかさが魅力。華麗な演技は見る人の好奇心を誘発し、心を慰める力をもつているんですよ」と世話人の織

田道念さん(75)は語ります。  
ある時、メンバーのお孫さんを助手に連れて老人ホームで慰问公演したところ、「こんなかわいい子の素晴らしい演技を見られて、もう今日死んでも悔いはない」と入居者の方が涙を流されたこともありました。そんな経験から、「老若男女を問わずもっと多くの人と交流したい」とマジシャンズでは日々練習に精を出しています。



大きな箱に閉じこめた女性が女の子にすり替わるびっくりマジック。

## 万年青春 夢見るシニア劇団

八尾市●八老劇団



中山房枝さん(92)を中心に、さらびやかな衣装をまとった4人の娘役が睡蓮の花を手に舞い、一座の歌姫、吉岡皎子さん(79)が熱唱を轟り広げる。八尾市老人福祉センターで芝居の稽古に励むのは、八尾の老人有志でつくる平均年齢77歳の「八老劇団」。

そして横から「間が変や！ あんた、



孫悟空をアレンジしたミュージカル  
ドラマ「悟空ふたり」の一場面。

1テンポ遅れてる！」「もつと大げさに！」と檄を飛ばしているのは浜田澄子さん。劇団を長年見守り、育ててきました同センター職員で、脚本家兼監督であります。浜田さんによると、同劇団の自慢は「声の大きさと元気」。そしてなにより「皆が楽しんで作品を作りあげていること」です。

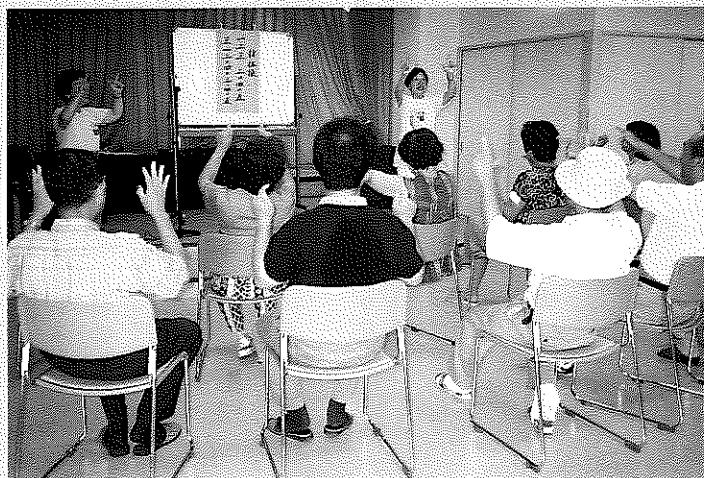
小道具・大道具から衣装にいたるまで、全員で手作りする衣装は、サン地の金、銀、鮮やかな赤・青・緑…と豪華絢爛。「劇中人物になりきって、人にアピールするのはとてもエキサイティング。血液の循環もよくなり、老化防止には最適」(浜田さん)で、皆さん目はイキイキ、とても顔色がよく、



決して衣装負けしていません。

これまでの上演作品は、「河内版ベルサイユのばら」「天界のかぐや姫」などオリジナル作品を含め、30以上。同劇団では地元の祭や周辺市町村の老人クラブで公演したり、頼まれればどこへでも駆けつけます。

そんな劇団の願いは、老人パワーを観客に感じてもらうこと。「私たちを見て、やればできる、自分もまだまだこれから」と元気を出してもらえば」と田中正太郎さん(82)。ハツラツと老春を謳歌しながら、同時代を生きるシニアを励ます…そんな素敵な八老劇団を今後とも応援したいものです。



### 特技を活かして 精神障害者と関わる

東大阪市●わくわくらんど

「さあ、いこつ!」「そうそう、その調子!」…卓球を指導する織田太郎さん(66)と白石敏夫さん(71)の元気な掛け声で、阪本病院精神科デイケアセンターのフロ

19

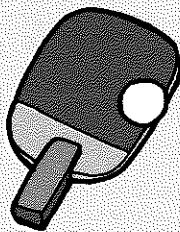
アには活気がみなぎります。

これは月2回金曜の午後、同センターで行われるボランティア参加のレクリエーション活動のひとこま。「わくわくらんど」は、高齢者10数名からなるグループで、利用者の人たちと心を通わせるボランティアをしよう」(織田代表談)と、昨年6月より活動を開始。この日は、童謡の合唱や歌体操と卓球指導を行いましたが、そのほかにも囲碁将棋、料理、折り紙、工作など、幅広い内容で同センターの通所メンバーと交流しています。

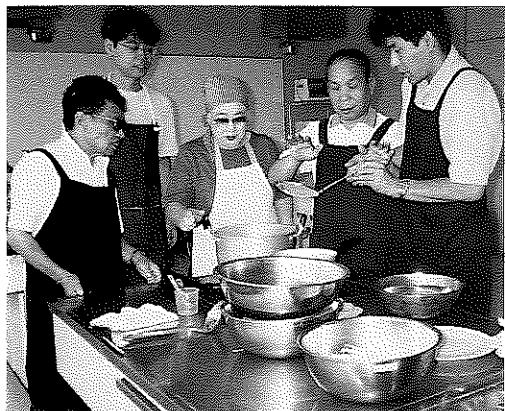
一般的に精神障害についての理解はまだまだ遅れているのが実情で、そのような中、「わくわくらんど」の活動は、府内でも画期的な取り組みと言ってもいいものです。病院側では「ボランティアの人との関わりは社会復帰をめざす通所者にとって大切なステップ。また病院を地域に開放していく上でも、この試みには大いに期待しています」と「わくわくらんど」の活動を歓迎。

一方「わくわくらんど」では、自分たちの活動が精神障害者に本当に役立つて

いるのか:と不安になつたこともある。そうですが、そんなとき、「普通に接してくれるのがうれしい」という患者さんの声を職員の方から聞いて、はげみになりました」と歌体操指導の小吉みさおさん(70)と三好美智子さん(74)。試行錯誤の中で迷つこともあると言いますが、すべての人が地域で共生できる社会をつくるいくためにも、貴重なこの活動を長く続けてほしいものです。







気を遣つて皮むき器を用意しても、本格的に覚えたいと自ら包丁でじやがいの皮をむくくらい、チャレンジ精神旺盛ですよ（笑）。

そして生徒さんたちが楽しみにしているのは料理はもちろん、快活な一本さんの人柄や人生觀がにじみ出る講習中の雑談です。「障害を理由に結婚はすまいと固く決意していた女性が、料理教室の合い間に話した私の育児経験談を聞くうちに、考えをえて恋愛結婚に踏み切られたことも」。開講20周年記念には40名の関係者が、一本さんを囲む「感謝のつどい」に参加。10数名の生徒さんたちが、講習の合間の雑談で勇気づけられ励まされたことなどを口々に語られました。

「障害をはじめ、さまざまな苦難を乗り越えてきた方々は明るく前向きで、ボランティアの方が教わることが多いですよ」と一本さん。お互いを高め合える、というのがボランティアの醍醐味のようです。

長年、大阪市の児童相談所に勤務し、その後は老人ホームの園長、さらには大阪市シルバー・ボランティアセンターの所長も務められてきた瀬川一人さんは、「福祉と高齢者ボランティア活動の、まさにオーソリティ。10月3日の「第8回おおさかボランティアフェスティバル」では審査委員長を務めていただきますが、ここでは瀬川さんに、シルバー世代のボランティア活動についてお話をうかがいました。

### ●

まず申し上げたいのは、これまでの高齢者とボランティアの関係は、なぜか「高齢者はボランティアされる側」、すなわちボランティアの世界では「お客さま扱い」されてきたのではないか：ということです。

しかし今や、元気なお年寄りはたくさんいらっしゃる。そして時間的な余裕のある人も大勢いる。もはやこれまでのように「ボランティアをされる側」ではなく、逆に「ボランティアをする側」に立

# ボランティアで積極的な社会参加を！

（財）健康・生きがい開発財団専任講師／大阪府老人大学講師／西山短期大学講師  
瀬川一人さん（72歳）

つていい。すなわちシルバー世代とは、積極的な社会活動・地域活動の主体：と考えていっていいのではないか、と私は思うのです。とくに高齢者は、それまでの長い社会経験の中で、それぞれ豊富な、かつ多様な特技や知識を身につけています。それを活用すれば、若者にはできないいろんなことができるはず。問題は、その経験や知識を「若者ではないボランティアの貴重な活動資源」というふうに多くのシニアが考えていない点なんです。とくに退職サラリーマンの方々は、仕事一筋に生きてきた自分に「地域活動やボランティア活動などできるはずがない」と考へている。しかし、けつしてそんなことはないんです。ゴルフができる、碁ができる、運転ができる、経理ができる…。それらはみんな、ボランティアに結びつく「資源」です。問題は、それを「気軽に活かせばいい」と思うかどうか…。

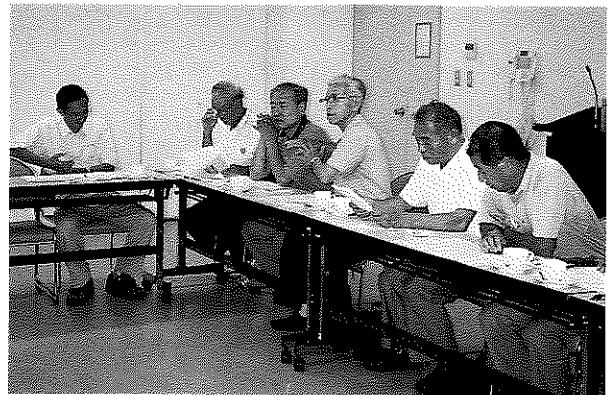
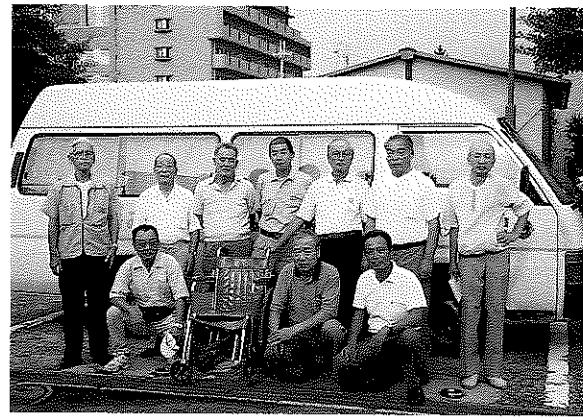
私は、これから時代、シルバー世代こそが地域社会の推進者になるべきだと考えています。地域で多彩なサークルを作つてください。そして、ボランティアで積極的な社会参加を図つてください。ご自分と、そして地域社会のために！」

## 市内を走る 「足」の助つ人

八尾市●運転ボランティアグループ

23

車椅子も乗降可能なリフト付き自動車で、高齢者や障害者の皆さんのお外出のお手伝いをする八尾市の移送サービスです。今までボランティアの活動ですが、いまではボランティアの数も35名に増え（内・女性は5名）、年間1600人（延べ）以上の市民の外出をサポートしています。早い日は朝の7時から出勤し、事情が許せば遠方への移送も引き受けるとあって、人気はうなぎのぼり。「そこで今年から



8月に行なった、羽曳野市の皆さんとの交流会

は利用を週一回に制限したんですが、利用者の皆さんも実情を理解して協力して下さいます。もちろん安全運転を第一に心がけていますが、利用者ご家族の“ありがとうございます”のひとことに励まされますね」とグループの皆さん。

利用者負担金は、一日1000円。メンバーの中心は定年退職者の皆さんですが、他に交替勤務をしている現役サラリーマンや主婦も参加しています。この8月には、同じ活動をする羽曳野市の人たちと交流会を持つなど、サービス向上への努力も怠りません。

2人1組で活動するので、運転のできない人でも、助手やナビゲーターとして活動は可能。いまでは利用者との信頼関係もできあがり、「今後は行楽などでの交流活動も積極的に行っていきたい」と抱負を語ります。八尾に住む、

ない活動として定着している運転ボランティア活動。熱心に取り組む皆さんに、今後とも熱いエールを送りたいものです。

## 趣味の扇子づくりから 広がる人の輪

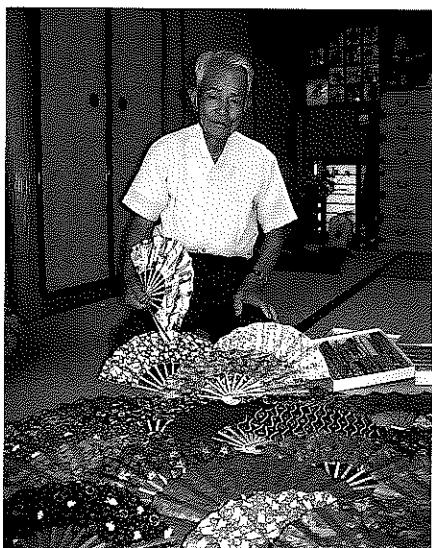
交野市●齊藤要さん（86）

24

四季の草花に亀甲文、青海波、そして干支のうさぎ模様……。華やかで情緒ある和紙を使った扇子の数々は、なんとすべて齊藤要さんの手作りの品。

齊藤さんは、今年86歳。扇子づくりをはじめ、ゲートボールや家庭菜園などいろいろな活動に元気に取り組んでいます。20年前、妻の満寿子さん（79歳）と訪れた京都で出会った扇子の美

しさに魅了されて、扇子づくりを思い立ったとか。完成した作品は、地元の人々にプレゼント。老人会の新年会や幼稚園の七夕祭り、地域の催しなどで好评を博しています。



誰に手ほどきを受けたわけでもなく、構造や作り方は、市販の扇子を見ながら自分でみだしました。軸にする竹は近所の知り合いの竹藪で切らせてもらう。それを日なたで乾燥させて細く割り、一本一本薄く削りあげ、キリで穴を開けます。「扇の要」をボルトで締めれば、いよいよ次は一番神経を使う和紙の裁断と貼り合わせ。表裏の和紙の端をぴったり捕えなければならないからです。そして仕上げ。和紙を切り揃え、外側の竹材を火であぶつてたわませて、折りたたむ。手になじむよう、細部にヤスリをかけて丸みをつければ、

「齊藤流扇子」の出来上がり。

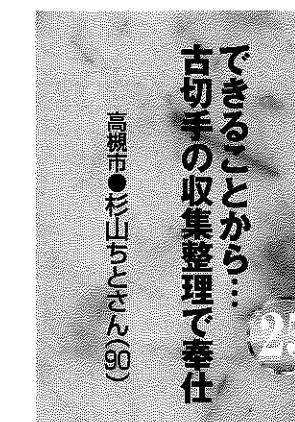
今でこそ、ほぼ失敗せずに作れるようになりましたが、最初はいろんなアクシデントもあったとか。竹材が割れたり、和紙のサイズを間違って端があわなかつたり、手を怪我したり……。ロウソクで服を焦がしたこともあるそうですが、そんな失敗も今ではほとんどなくなり、一日一本のペースで扇子を作り続けています。

扇子以外にも、余りの竹材でコマやトンボ型ブローチなども作っており、こちらは子どもたちに大好評。

町を歩いていて「トンボのおじちゃん、こんにちは！」

「友和会」では、17年間、市役所から切手つきの封筒をもらって古切手の整理をしたり、ロータスクリーポンの収集整理、空き缶拾いなどのボランティア活動を行っています。

「いまは体力が落ちて以前ほど活動できませんが、気持ちだけでもお役に立てばと思い、古切手の整理をお伝えています」とおっしゃるのはグ



## できることがら… 古切手の収集整理で奉仕

25

と声をかけられることもしばしば。自分の手で作品を完成させるモノづくりの楽しさと、それを縁とする人の出会い。扇子づくりは、齊藤さんの生活の一部として、もはや欠かすことのできないものとなっているようです。



月1回はメンバー全員で古切手の整理をする。中央が杉山さん。

会の高齢者のうち比較的若いメンバーは、独居老人を訪ねて食事を介助したり、話し相手になる友愛訪問も行うなど、12人がそれぞれできる範囲で活動。杉山さんは「多少でも人の役に立ちたい：そんな気持ちが大切」で、「自分にできることから気軽に参加してほしい」とこれからボランティアを始める方にアドバイス。「体力の続く限り奉仕活動を続けたい」。そう語る代表の東賢彦さん（88）をはじめ、皆さんのはますますの活躍を期待したいものです。

杉山さんは、高槻市の障害者のための運動会には毎秋参加され、「障害者を持つご家族の方と遊んだり、走つたりして一緒に過ごすこの1日は本当に楽しい」とボランティアの喜びを語ります。

## 朗読は奥の深い世界です

四條畷市・山本増江さん（76）



「わかりやすく、正確に文を理解して

読むのはむずかしい。朗

読は本当に奥が深いですね」と語る山本さん。よどみなく思いを語る口調はバイタリティーに満ち、その声には艶・張りがあつて年齢よりずっと若い印象です。

10年前、ボランティアを始めようと四條畷市の市社協を訪ねたところ、「そのお声でしたら、朗読ボランティア『あけぼの』に入られたらいかがですか」と勧められ、次第に朗読の魅力に開眼していきました。

活動の場は週3回、特別養護老人ホーム等で数人から14～15人のお年寄りへの対面朗読や、起き上がりれない人はベッドサイドで本を開きます。本の選択には頭を悩ますそうで、新聞の書評等を参考に探し、限られた時間内にどのページを読むかをチェックし、読みの練習を重ねます。

そうした活動と並行して、通信教育の朗読ボランティア養成講座で学び続

け、4年前には「メンタルケア」の講座も受講しました。それは「お年寄りと接するうちに、本読み以前の問題があると感じたから」だと。講座では「相手に心から共感して接することを学んだ成果は大きく、本読みだけではなく心を開いてくれなかつた人が、一変して素直な言葉を返してくれるようになつたとか。「年をとっても生涯勉強です」の言葉に実感がこもります。

「朗読活動を通してあらゆるジャンルの本の世界を知り、聞き手の人生に触れ、大きな影響を受けた」と語る山本さんは、彼女自身のそれまでの人生アルバムも、多彩なシーンで彩られてきました。児童福祉施設職員、教育相談員、最終は幼稚園の園長として退職するまで現場の一線で働き、子育てや家族の看護など、時間的・精神的制約があるなかでも、「創造することが好き」と、常に新しい教育・保育の試みに挑戦。「冒険のような人生でした」の言葉に、自信とやさしさが溢れています。いつまでもお元気で、この活動を続けていっていただきたいものです。



## 活動を通じて、逆に私たちが励まされます

茨木市●あゆみ

27

各種福祉施設への慰問や在宅高齢者の外出介助、また保育などの多彩な活動に取り組んで15年。バイタリティあふれるボランティアグループです。障害を持つ皆さんが働くカレーショップやクッキーのお店を手伝つたりもしていますが、励ましているつもりの

三つ子家庭や虚弱なお母さんの育児を支援したり、各種のイベントを開催したり…と活動の幅がきわめて広いサークル「あゆみ」。「ゆりかごから墓場まで」が、約50人の会員の合い言葉だそうです。

私たちが、逆に励まされることもあるしば」とメンバーの河井千代さん。

「障害児を持つご家庭や老人ホームなどを慰問して思うのは、とにかく皆さん、今、懸命に生きておられる…ということです。そんな姿から、逆に私たちがエネルギーをいただくんですよ」とも河井さん。

三つ子家庭や虚弱なお母さんの育児を支援したり、各種のイベントを開催したり…と活動の幅がきわめて広いサークル「あゆみ」。「ゆりかごから墓場まで」が、約50人の会員の合い言葉だそうです。

また、ボランティア活動はメンバーの幸せと生きがいとなり、80歳代の人間的魅力をバネに、これからも地域で多くの人を支えていきたいと夢をふくらませています。

## 杖のようなくだりになりたい

豊中市●ステッキ

28

お年寄りや介護者の「杖」のような支えになりたいと、グループ「ステッキ」が7年前に結成されました。以来、

コツコツと活動を続けていた田口増恵さん、長岡美千代さん、野一色隆江さんは80歳を超えてますが、今も現役で活動中。

設立当初は、大阪府豊中保健所が主催する「痴呆性老人家族交流会」で介護者の懇談会を開く間、同伴されたお年寄りの託老に取り組み始めました。その後、高齢者世帯やひとり暮らしのお年寄りの世帯への話相手や外出介

## お年寄りの、いきいきとした表情がうれしい

茨木市●奈良すずらん会

29

## 笑顔と笑いがたえない

豊中市●さわやか

30

生きる喜びと元気をふりまいてくれる、そんなグループがいきいきとした

施設訪問や盆踊り、さまざまなチャリティ活動に取り組む「奈良すずらん会」。スタートしてまだ3年ですが、前に結成し、さまざまな地域のイベントや施設・病院、校区福祉委員会事業などで活動中。昔懐かしい童謡や唱歌・ポピュラー・歌謡曲などに合わせながら、身体にリズムをつけ、手・



足・全身を動かします。大きな声で歌つて生活にリズム、健康増進や老化防止、楽しいリハビリからストレス解消、そして生きる喜びへと無限に楽しさが広がり、平均年齢70歳のメンバーはますます若返ってハリキッテいます。



## 89歳の ビデオボランティア

豊中市●保田健一さん（89）

保田さんは、もともと写真屋さんでした。が、動画に魅力を感じビデオを購入。その後編集や音入れ等にも挑戦し、ビデオ制作ボランティア「ズーム

イン」で活動を始めました。当時は、寝たきりの妻の介護の合間にビデオ撮影に出かけ、NHKのビデオレターでも地域のたよりを提供してきました。

これまでに、ボランティア活動の記録や啓発ビデオを数多く手がけ、撮る楽しみ、作品にまとめる楽しみ、みんなで鑑賞し批評し合う楽しみと出来上がるまでの楽しみが何より。この人こそ「高齢者ボランティア」のお手本のような人と周囲から高い評価を受けています。

保田さんは「ビデオが生きがいです。これからも撮影を通して、いろんな人と出会っていきたい」と抱負を話しています。

これからも撮影を通して、いろんな人と出会っていきたい」と抱負を話しています。

コーラスの発表は、ホーム内の行事や近くの教会への参加などですが、手話を取り入れたり、呼吸の仕方を学んだり、難しい曲にもチャレンジしています。



## ホームに響く歌声

四條畷市

● るうてるホーム・シルバーコーラス



昭和47年、四條畷市の軽費老人ホーム「るうてるホーム」に作業室ができ、ピアノを置いたことがきっかけで、歌の好きな人が集まって歌いはじめたのが始まり。毎週土曜日に地域のピアノと声楽の先生の大谷光子さんとの指導で練習を重ね、その他週3回の自主練習も取り組み、歌とともにホームで生活

をすごしている平均79.5歳、最高齢90歳の12人のメンバー。その輪の中には、地域の高齢者も仲間に入り、28年間指導を続いている大谷先生の熱意と人柄と歌う喜びで一つにまとまっています。

「ヘタなんですが大好きになつてしましました。楽しくやっています」「先生の熱意に励まされて、この年まで歌えるのはありがたいです」「歌うのが好き」など今も青春のよう。これからも「いつまでも成長していきたい。もっと心を合わせて一生懸命歌いたい」など、心のケアもしてくださる大谷先生の指導と職員の励ましでいつも歌い続けていくことを願っています。



# 2万2000人のネットワークでさらなる活動を！

Vサイン  
No.7

大阪府市町村ボランティア連絡会（矢形律子会長）は、大阪府内の市町村ボランティア連絡会の組織化を進め、現在32市町村のボランティア連絡会が加入（約600グループ、2万2000人を組織化）して活動しています。

この連絡会は、平成8年に開催された第5回全国ボランティアフェスティバルを契機に、大阪のボランティア団体を包括する代表的組織として結成されました。

以来、市町村の横の連絡、交流を図りながら、おおさかボランティアフェスティバルをはじめ、重油回収ボランティア活動やふれあいピック、福祉マップづくり、研修や調査、

各種委員会への参加と提言など様々な活動に取り組んでいます。

今回、市町村ボランティア連絡会が発行していた機関紙「Vサイン」を本誌「ボランティアOSAKA」に統合し、ともに企画・編集に取り組んでいくことになりました。

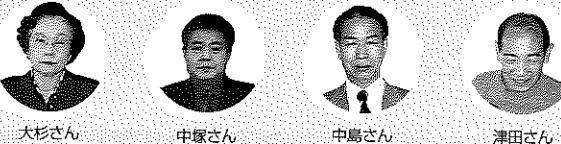
そこで、第1回を記念して、役員のみなさんのメッセージを紹介し、ボランティアOSAKAが身近な情報誌となることを願って今後の紙面づくりへのご協力とご意見を併せてお願いします。

## 役員会

会長	矢形 律子	北摂	(高槻市ボランティア連絡会)
副会長	植野 昭雄	北摂	(摂津市ボランティア連絡協議会)
副会長	北垣 登美	河北	(守口市ボランティア連絡会)
副会長	中島 恒夫	河南	(東大阪市ボランティア連絡会)
副会長	大杉 貞子	泉州	(高石市ボランティア連絡会)
幹事	竹村 和枝	河北	(四條畷市ボランティア連絡会)
幹事	山田 雪枝	河北	(大東市ボランティア団体連絡会)
幹事	津田 尚文	河南	(太子町ボランティアセンター運営委員会)
幹事	近藤 裕子	泉州	(泉大津市ボランティア連絡会)
監事	大藪 幸雄	北摂	(茨木市ボランティア連絡会)
監事	畠山 康子	河南	(柏原市ボランティア連絡会)
会計	中塚 利彦	泉州	(和泉市アイ・あいロビー運営委員会)



後列左より、大藪さん、濱崎さん（植野さん代理）、畠山さん。  
前列左より、竹村さん、山田さん、矢形さん、近藤さん、北垣さん。



大杉さん 中塚さん 中島さん 津田さん



## バリアフリーカー ム会

後列左より	原 三枝子	河南	(八尾市ボランティア連絡会)
	大藪 幸雄	北摂	(茨木市ボランティア連絡会)
	栗原清美子	河北	(交野市ボランティア連絡会) 部会長
	藤原 法子	泉州	(岬町ボランティア運営委員会)



## 広報部会

後列左より	網谷 朝代	河北	(門真市ボランティア連絡会)
	宮田 信直	河南	(河内長野市ボランティア連絡会) 部会長
	渡瀬 芳子	北摂	(池田市ボランティア連絡会)
	近藤 裕子	泉州	(泉大津市ボランティア連絡会)

- 府内のボランティアがつながることで、ボランティア連絡会の役割も一層明確になることだと思います。（矢形）
- 気力、体力のある間、ボランティアは暮らしの一部、気張らずに普通に続けたい。（近藤）
- ボランティアとは、何ぞや？を原点に戻って考えてみたい。（大杉）
- “環境浄化”千里の道も一歩から。気のついに人から始めましょう。（網谷）
- 初めて参加の大V連役員会、みなさんの活動を見聞き、楽しんでおります。小さな連絡会、小さな活動を楽しんでやっています。（畠山）

- 大人も子どもも、みんながボランティア精神を持つことで、住み良い町に。（山田）
- ボラ連役員会に初参加、意義あるものを自市に伝え、活動を続けたいと願っています。（北垣）
- 高齢者、障害者、誰でも自由に行動できる楽しい社会をつくりたい。（竹村）
- 延暦寺に次の様な塔があります。“一隅を照らす人になろう”私も少しでもそんな存在でありたいと思う。（植野代理 濱崎）
- みんなが使いやすい、わが街の駅づくりを。（大藪）

- 介護保険の実情をドイツで聞いてきました。介護保険とボランティアについてしっかり考えていきましょう。21世紀、共生の世界をめざして！（中島）
- 『おかげさまで助かりました』『お役に立つて結構でした』自分が抱え込んでいるよりも、活動することによって共に生かされることを喜ぶ人生が生まれてくるように、ボランティア活動をみんなと全力投球していきたいと思います。（津田）
- “ボランティア”という言葉がなくなった時、はじめて豊かな社会がやって来る。（中塚）

勤労者のボランティア活動 入門講座

現役サラリーマン、労組の皆さんのお待ち  
します。（無料・定員30人）

日時 9／29（水）、10／20（水）、11／17（水）、  
12／15（水）各18時30分から20時30分

場所 市総合市民交流センター（JR高槻南駅前）

内容 大阪ボランティア協会事務局次長・名賀亨さん  
の講演や事例報告

申込み  
高槻市ボランティアセンター  
細屋町3-1-303  
TEL 0726 (83) 2220  
FAX 0726 (83) 2209

中級朗読ボランティア養成講座

日時	10/18	11/1	11/8
午後1時から3時まで	10/18	11/1	11/8
場所	柏原市ボランティアセンター作業室 (健康福祉センター内)		
対象	初級程度の講座を修了した方 約20名		
講師	日本話しことば協会から派遣いただきます		
参加費	日本語上級者会員		
申込みと問合わせ	日本語上級者会員		

99  
かがやきフエステイバル

すべての人々が、共に生きる社会の実現を目指して、開催されます。



## 第18回 「東大阪ふれあい広場」

日時 10／17(日) 午前10時から午後3時まで  
場所 東大阪市立総合福祉センター  
内容 バザー、模擬店、福祉機器展、演芸「パー  
インターねつトコーナーなど  
問合せ 東大阪市ボランティアセンター  
TEL 06(6789)5550

問合せ

関西電力 大阪北支店支店長室  
TEL 06(6377)7308  
関西電力 大阪南支店 支店長室

- 関西電力 大阪南支店 支店長室 TEL 06(6676)2208
- 協力してくださるボランティアさんの募集もしています
- 「ボランティア 市民活動フェスティバルinおなつか」(10時半～16時)も同時開催

交流会「みんなと遊ぼ、ふれあいの輪」

「屋台、ゲーム、展示、演奏会などを通じて障害者とふれ合いませんか。高校生以上の皆口ボランティアも募集中です。」

●ボランティアさん募集中

着替えや食事介助、送迎補助、話し相手など週一回、3時間程度からでもお願ひします。(日曜除く)

費用	学生・一般的男女
交通費	の補助あり
場所	高槻市大塚町5-201 京阪バス停「大塚」下車
問合わせ	(医) 東和会老人保健施設 「サンガビニア館」 TEL 0726(73)6500 FAX 0726(73)6522

# いつまでも 安心して暮らしたいね！

私たち関西電力グループのテーマは「安心・健康・快適」。  
火を使わない電化ライフやバリアフリー住宅リフォームなどの取り組みを通して、  
いくつになっても自立した生活をおくることのできる  
「高齢者にやさしい住まいと暮らしづくり」を応援しています。

「家中でこけたら  
大変やと、息子が  
『リフオーム』  
してくれましてん。  
あっちゃんこっちゃに  
手すりつけたり、  
段差をなくしたり…。  
おかげで動くのが  
ラクでよろしいわ。」



●手すりやスロープの設置、  
敷居などの段差の解消など、  
リフォームで安全に  
暮らせる住まいづくりを。



「煮物つくったり、  
お風呂の湯を沸かすのも、  
ぜーんぶ電気に変えましてん。  
『オール電化』  
と言うんですけど、  
火使わへんから、  
ほんま安心やし、  
毎日極楽でっせー。」



●調理も入浴も暖房も、  
家中すべて電気で  
まかなうオール電化。  
火元がないので  
日常生活も  
外出時も安心です。



「わしあの頃  
コシ持つてますねん。  
『みつけ太郎』いうて、  
ウロウロしどっても、  
コレさえ持つとつたら、  
家族にわしの居場所が  
分かって便利やでー。」



●一人であちこち出かけたい高齢者に朗報！  
いざという時、すぐに居場所を捜して  
ご家族にお知らせします。

「オール電化」のお問合せ先は

関西電力 電化ライフ相談室  
ハローキュウトウイチバン  
**0120-869101**

「リフォーム」のお問合せ先は

関電製作所 住宅リフォームセンター  
**06-6536-2811**

「みつけ太郎」のお問合せ先は

アステル関西 法人営業部  
**06-6359-6126**

関西電力